

第5学年図画工作科学学習指導案

1. 題材名

ちがう見方で

2. 題材の目標

(1) 図画工作科としての目標

- ・見たり、描いたり、調べたりしたことから、自分が感じたことや、考えたことを、表現することができる。また、鑑賞の活動のよさについて考えることができる。
- ・多くの作品を鑑賞し、様々な表現方法があることを知ろうとする。また、自分の好みについて理解しようとすると共に、人それぞれの違いを知り、認めようとする。

(2) 汎用的スキル

- ・作品から感じたことや、友達の意見から、自分の見方を見つめ直すことができる。(メタ認知力)

(3) 態度・価値

- ・よさを感じた作品、自分や友達の感じ方を、大切にしようと思うことができる。(愛する心)

3. 児童の実態

これまでこの学年では、その表現に関連した特定の作品をこちらから提示し、見る活動、アートカードでのあそび、互いの作品を見あう活動、等を鑑賞として扱ってきた。また、5年のはじめには、自分をキャラクターにする題材の中で、自分とはどういう人間か、とそれぞれが自己分析をしてきている。多様な作品に出会い、そこから自分の興味のあるものを選び、深く見ることで、作品と向き合うだけでなく、鑑賞を通して改めて深く自分と向き合う機会にしたい。また、12月に行った展覧会について、その意義について尋ねたときには、首をかしげる児童も多かった。題材の終わりに、鑑賞のよさについて考えることで、普段の図工の授業だけでなく、行事や、あらゆることに対して、その価値を考えながら取り組む態度を育みたい。5年きく組は、明るく、男女の仲もよい学級である。ただ、自分の考えを発表することについては、特定の児童に任せてしまうところもある。考えをまとめる時間や、全員が話しをする機会を設けるなど、全員が意見交流できるよう、支援していく。

4. 題材について

(1) 教科から見た特性

この題材は、多くの作品の中から自分のお気に入りを選び、それについて鑑賞し、共有する活動である。まず、一人一人、自分がよいと感じる作品を探すところからはじめる。いくつかある選択肢から作品を選ぶ際には、自分はこういった感じが好きで、どのようなもの、雰囲気、考え方をよしとしているか、という自己理解につながっていくと考える。次に選んだ作品を3段階で鑑賞する。①色や形からイメージをふくらませ、見て感じたことを言葉としてまとめていく。②模写をする。見てかくことは、色の深みであったり、タッチであったり、より細かい部分を見るきっかけになると考える。③見て分かる情報だけではなく、調べていく上で分かること、作者や、時代背景、コンセプトなどから考えたことをまとめていく。普段はあまり触れてきていない作品以外の部分から、違った見方で見るのである。作品だけでは伝わらない、こういうことだったのか！という面白さがある作品からは、作品にはコンセプトも大切なのだ、と感じるきっかけになるだろう。3段階、あらゆる見方で、作品を見つめていく。そして完成したレポートをクラスで共有する。自分以外の人がどのようなものを選び、考えたのかを知ること、それを認めるということ、それは他者理解の考え方につながっていく。最後に、鑑賞の活動のよさとは何かということを問う。ここで、鑑賞するということは、目の前の作品を見ることだけでなく、自分のこれからに影響していく、ということに気づかせたい。

このように活動自体を俯瞰的にとらえ、学びを児童が実感し、その意味を感じながら取り組むことは活動を自分ごととして考えられ、深い学びに繋がるのではないかと考える。そして、芸術教科が決して将来役に立たない教科ではないということ、自分たちの成長につながっていることを感じて欲しいと考える。作品を見つめ、周りとは交流する中で、自分について一人一人が考えを持つことができるようにしたい。

(2) 汎用的スキルや態度・価値育成の観点から見た特性

自分のお気に入りの作品について、レポートにまとめ、紹介することは、自分の感じたことや、考えたことを自覚することにつながると考える。また、似たタイプの作品を選んだグループ、タイプの違う作品を選んだグループで意見交流することは、様々な見方で作品を見ることにつながると考える。多くの作品の中から、自分の好きなもの、好きではないものを分けること、様々な感じ方や考え方に触れることで、自分が大切にしたいものや、自分の感じ方、考え方を大切にしようと思う気持ちを育みたい。

5. 題材計画と資質・能力を育成する主な手立て（全6時間 本時5／6時間）

	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第1次(2時間)	お気に入りの作品を見つける	○愛する心	○多様な作品の資料準備
第2次(2時間)	選んだ作品を鑑賞する		
第3次(1時間)	レポートを共有する【本時】	○メタ認知力 ○愛する心	○他者との共有の場の設定
第4次(1時間)	鑑賞のよさについて考える		

6. 本時の学習指導

(1) 本時のねらい

- ・友だちが紹介する作品や、友達の考えに対して、自分の考えを持つとともに、友達と考えを共有することのよさについて考えることができる。
- ・作品のよさや美しさを感じようとするとともに、人それぞれの違いを認めようとする。

(2) 本時の展開

時間	○学習活動 ・予想される児童の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
導入 5分	○これまでの活動を振り返る。	◇作品の紹介だけでなく、様々な見方で作品を鑑賞したことを発表するように声をかける。(メタ認知力)
自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞くことのよさって何だろう。		
展開 25分	○グループの友達に、自分のお気に入りを紹介する。 ・色や形から想像したこと ・背景が真っ赤で、情熱的な感じがしたよ。 ・カクカクしているのは、すごく悲しいことを表現したいんじゃないかな。 ○情報から考えたこと ・この場所にかくってことに意味があった。多くの人に想いを伝えたいってすごいと思う。 ○模写をして感じたこと ・かいてみたらすごく複雑な色だと分かった。何色も色を重ねたら近い感じになったよ。 ○発表をうけて意見交流をする。 ・どこからそう思ったの？ ・私はあなたとは違って、こんな絵だと思うなあ。 ・私と君は似ているね。 ○クラスのレポートを自由に見てまわる。 ・それぞれ選んでいる絵も理由もバラバラだね。	◇グループ内発表はメンバーを変えて2回行う。一回目は、似たタイプの作品を選んだグループ。これは、自分も気が付かなかったような部分に気付いたり、共感したりすることをねらいとしている。二回目は、なるべくタイプの違う作品を選んだグループ。これは、意外な発想や、面白さ、考え方の違いに気付くことをねらいとしている。(メタ認知力)(愛する心) ◇自分以外の子が持つ視点に気付かせるため、発表を聞くときは、積極的に質問をしたり、自分の考えを話したりするよう促す。(メタ認知力) ◆友達のレポートや発表を進んで鑑賞し、多様な感じ方、考え方を認めようとしている。(態度、発言)
結末 15分	○友達のレポートや、考えについて、共有したいことを発表する。 ・Aさんと私は同じ作品を選んでいんだけど、選んだ理由が違って、面白いと思った。 ○友達と考えを共有することのよさについて考える。 ・自分では選ばないような、作品を知ることができたり、自分にはない考え方を知ることができる。 ・分からないことについて、みんなで考えることができ、自分の考えが深まる。 ・同じものをいろんな見方で見ることができる。 ・友達の考えを聞くことで、その子の好みや大切にしていることが分かるし、あらためて、自分の好きなものや感じがわかる。	◇作品を見ることで学ぶこと、交流から学ぶことがあることを確認する。 ◇一人一人が考えを持つことができるよう、グループで少し話し合った後、個人で記述する時間をとる。(メタ認知力)(愛する心) ◆作品や考え、活動に対して、自分の感じたことや考えたことを表現している。(発言、ノート)